

本市の環境学習関連事業について

1. 自然家族事業

◇事業目的

過去に行ったアンケートでの「親子の自然体験活動が低下している」という調査結果を受け、今後の生活の中で「自然」や「環境」について親子で考えてもらえるきっかけを作る。

◇事業概要

「里」・「川」・「びわ湖」・「里山」において、家族で楽しみながら自然を学び、子育て家族の自然体験を幼い頃から積み重ね、育んでいこうとする環境教育プログラム。令和元年度からはおおつ環境フォーラムに全面委託している。

○令和6年度は「里山の日」・「川の日」・「びわ湖の日1」・「びわ湖の日2」・「里の日」を実施予定。

2. 指導者研修会（自然体験活動スキルアップ研修会）

◇事業目的

環境教育に関する知識、経験、技能を有する指導者数の確保及びスキルの向上を図るため、指導者等に対して研修会を実施する。

◇事業概要

特に、幼児に接する機会の多い保育士・幼稚園教諭を対象とした研修を実施することにより、幼児期における環境教育の充実を図ることを目的として、木工クラフトやネイチャーゲーム等の内容を年2回程度実施している。

○令和6年度は夏、秋（実践編）にそれぞれ実施予定。

3. 大津こども環境探偵団活動

◇事業目的

環境全般について体験し、五感を活かした学習をすることで、環境に対する幅広い知識を体得し、「環境人」を育成していく。

◇事業概要

「大津こども環境探偵団」と称し、年度当初に小3から中3の子どもを約50人募集し、年間を通じて環境全般（自然環境、社会環境）にわたる総合的な体験学習を推進する。活動の企画・運営については、「大津こども環境探偵団エコリーダー」が行っている。

○令和6年度は「水生生物探偵」を含む4事業を実施予定。

4. 身近な環境（生きもの）市民調査

◇事業目的

身近な自然や生きものをはじめ景観、湖岸形態などの色々な環境を対象にして市民が調査員となって調査を実施し、身近な環境の情報整備と調査を通じた環境学習を推進する。調査を通じて身近な環境に触れ、環境について考えることは、自然環境保全の意識を育む機会となる。

◇事業概要

平成2年度から平成14年度にかけて、ホタル、ヨシ、ユスリカ、アカトンボ、水辺の鳥、たんぼぼ、ツバメ、酸性雨、魚、サクラ、身近な鳥、セミ、ミミズなどの調査し、その後、平成23年度から令和5年度までに、セミ・アカトンボ・ドングリ・カエル・たんぼぼ・ツバメ・バッタ・サギ（鷺）・ドングリ・たんぼぼ・セミ・アカトンボ・カエルを調査した。調査結果は、地図や冊子等にまとめて、調査員をはじめ教育機関、図書館、支所、研究所等のほか希望者に配布している。

○令和6年度は「ツバメ」を題材に実施。

5. ヨシ保全事業

◇事業目的

湖辺生態系の保全、魚類の住処や産卵場所の提供、鳥類の住処や繁殖場所の提供、水質浄化、湖岸保全、湖岸の景観保全などの機能を持つといわれるヨシ帯を保全する。

◇事業概要

平成2年度から「湖辺ルネッサンス～大津のヨシ作戦～」と名付け、ヨシ保全事業に取り組んでいる。中でも、市内最大のヨシ帯である雄琴六丁目地先で、全市民が対象の「市民ヨシ刈り」においては、ヨシの良さを認識してもらうため、ヨシ笛コンサートやヨシ工作教室等のイベントを実施しているほか、ヨシ紙製品等を市民ヨシ刈り参加者に配布している。